

沖縄県文化観光スポーツ部から、6月5日付けで「平成29年度おきなわ国際協力人材育成事業」最終選考審査において、増田琉斗君(3-3)が派遣決定という通知を受け取りました。

本事業は「県内の若者を開発途上国へ派遣し、我が国のODA・NGOの活動状況の視察・交流を行うことで本県の国際交流と協力活動を担う次世代の人材の育成と本県若者の国際交流・協力活動の必要性の理解やグローバルな視点を涵養すること」を目的として実施されるものです。

増田君は、沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課における厳正な書類審査と5月22日に行われた面接を経て、見事その栄誉を手に入れました。

この事業に応募しようと思ったきっかけについては「中学校の頃から開発途上国に興味を持ち、その現状や課題を学びたいと考えており、それを活かす良い機会に出会った」とし、特に「貧困問題について沖縄県との比較やその対策について研究したい」とあり、さらに、将来の夢は地理歴史の先生になることで「自分で見聞きしたことや経験したことから、教科書には載っていないことを子どもたちに伝えたい」と熱い思いを淀みなく話してくれました。

野球部員でもある増田君は、現在練習試合でのケガにより、右腕にギプスが巻かれている状態です。つまり、夏の県予選でプレーができなくなった失意のどん底でのこの結果に関係者は大喜びで、特に選考結果について、ご両親の一声が「骨折してよかったじゃん！」だったそうです。

本人は、派遣国について当初モンゴルを希望していたそうですが、カンボジアに決定したことについては「どこに決まっても、その現状や課題を学ぶ機会に変わりはなく、また同世代13名の高校生たちと一生の思い出を作ることができると思うと今から楽しみです」ときっぱり。

野球夏の県予選ではプレーこそできませんが、コーチャーとしてベンチ入りできたことを嬉しそうに話し「今、走塁の本を読んで勉強しています」と語る笑顔が最高に誇らしい表情でした。

